



Lend a Hand

"手を貸そう"

2003-04年度 国際ロータリーテーマ
ジョナサンB・マジヤベRI会長

TANABE ROTARY

District 2640 田辺ロータリークラブ Club Weekly Bulletin



4つのテスト (FOUR WAYTEST)
言行はこれに照らしてから
(1) 真実かどうか
(2) みんなに公平か
(3) 好意と友情を深めるか
(4) みんなのためになるかどうか

例会日 木曜日 12:30
例会場 紀陽銀行三階ホール
会長 津村寛司
幹事 荷稻 實
会報委員長 新藤整市

承認 昭和28年3月2日
事務所 田辺市栄町24 〒646-0048
紀陽銀行田辺支店内
TEL 0739-24-2002
FAX 0739-26-0264
mail tanaberc@mb.aikis.or.jp



尋声寺 大絵馬 撮影 新藤整市会員

司会者

津村寛司会長

ソング

今日の日はさよなら

ゲスト

日本高校野球連盟
会長 脇村春夫様

ヴィジター

12月25日・1月1日 休会

本日のプログラム 1/8

新年例会
「年頭のご挨拶」
津村寛司会長

次回のプログラム 1/15

石田裕輔様
「自転車世界一周第3弾」

出席報告

	会員数	欠席者	出席者	出席率
総数	86名	21名	65名	
出席計算者	76名	15名	61名	80.26%
12月4日修正出席率		86.84%		

メイクアップ

12/12 廣本他9名(白浜)
12/16 玉置他12名(田辺はまゆう)

お祝い

会員誕生日 12/18 古久保
夫人誕生日 12/31 榎本智子(育生)

ニコニコ箱

大変お忙しい中、脇村春夫さんようこそお越し下さいました。又、甲子園で大変お世話になりました。ありがとうございました。本日の卓話楽しみにしています。……新井、高橋武、山本、渡部、田上、川内、榎本育、串上、阪井、中松、尾崎、新藤、廣本、玉置、小山、近藤、坪井
本日卓話の脇村春夫君をよろしく。……脇村今年お世話になりました。来年もよろしく。…津村ハワイへ12月7日から行って来ました。フラダンスとタヒチダンスの違いを見聞しました。第二次世界戦争の口火となったパールハーバー(真珠湾)攻撃の日(1940年12月7日)を記念した催しを見て戦争のむなしさと平和の尊さを実感しました。……村上ロータリーゴルフ久々に優勝しました。……成田ロータリーゴルフ準優勝しました。……辻啓

ゴルフ11月優勝になっていました。……大川年末ハナヨでの売り出し無事終わりました。……坪井

お知らせ

会長報告

- 脇村春夫様お忙しい中、田辺ロータリークラブへお越し下さりありがとうございました。
- 本日で2003年最後の例会になります。皆様より多くのご恩を賜り半年間ありがとうございました。



幹事報告

- 12月25日と1月1日の例会は休会となります。
- 事務局は、27日より1月4日までお休みです。
- 新年例会は1月8日で例会順序は変更します。
- 後期の会費は、第1例会より徴収します。
- 近隣クラブの週報が届いています。

委員会報告

次年度幹事予定者

植田芳

- 本日第1回次年度理事役員予定者会議を行ないました。次年度理事予定者の委員会と役員予定者SAAと副幹事予定者の選任を致しました事を報告致します。

親睦活動委員会

木村

- 新年会を1月24日(土)PM6:30より新庄の海鮮問屋丸長で行ないます。バスの送迎も致します。1月8日に詳しくお知らせします。

和歌山県の高校(中等学校)野球の歩み

日本高等学校野球連盟 会長 脇村春夫様

(一) 戦前の歩み

日本の野球は明治30年代、旧制一高から各県の中学校、師範学校へと普及して行ったが、その中でも和歌山県は和歌山中学校(和中)が明治30年と全国的にも早く野球が始まった。続いて明治36年、田辺中学、明治38年、耐久中学、大正4年、高野山中学で野球部が創部されたが、昭和の初期迄は和中が断然強く、夏の甲子園全国大会が始まった第1回から連続14回(大正4~昭和2年)の新記録を作り、又大正10・11年の夏の大会2連覇の大偉業を成し遂げている。



この和中の圧倒的な強さの要因は、野村浩一校長の熱意、早稲田OBによるコーチ、毎日新聞和歌山支局による外来チーム(大毎球団、天狗クラブ等)の招聘による試合、県外での他流試合などによるものである。

然し、昭和7年頃からは和中、海草、和歌山商業、海南の4校鼎立の時代を経て、昭和12~15年の海草黄金時代(昭和14・15年の夏の甲子園2連覇)を迎えたのである。

このように、戦前の和歌山県紀北の野球レベルは全国的に見てもトップクラスと言えよう。全国優勝回数5回(春1回、夏4回)は愛知県(10回)、兵庫県(6回)、広島県(6回)に次いで第4位であり、甲子園出場をかけた紀和大会で和歌山が奈良に負けたのは1回(昭和8年、郡山中)だけであった。

上述の和中の連続優勝に刺激されて大正11年には紀北の女学校4校に野球チームが誕生したことは当時としては珍しい。いかに野球熱が広がっていたかがうかがえる。

(二) 戦後の歩み

終戦直後から昭和30年代半ば頃迄は学区制の影響で海草中(向陽高)の力が衰え、代わって紀南勢

が台頭する。先ず最初は田辺中(高校)が昭和22・23年春の選抜に連続出場するが、いずれも2回戦で敗退。当時の選手からは6人が後にプロに入ったほどのパワーのあるチームだったが惜しむらくは投手力が弱かった。続いて新宮が春夏合わせて8回の甲子園出場を果たす。昭和34年から52年までの19年間は和歌山勢の低迷期で、紀和大会で和歌山が勝ち、夏の甲子園に駒を進めることが出来たのは僅か7回だけで奈良勢の方が強くなった。

和歌山県下では昭和40年代以降昭和59年迄は箕島一強時代、その後は現在迄続く智弁和歌山の一強時代となる。両校の強さの原因は箕島は尾藤、智弁和歌山は高嶋と云う監督の指導力によるものである。この間、箕島は春夏4回、智弁和歌山は3回の全国制覇を遂げている。智弁和歌山は各学年の野球部員は10名、総勢30名に限っての少数精鋭主義が強さの源泉でもある。

上記2強に挟まれながらも、昭和50年代以降、紀南勢もけっこう頑張っている。即ち、新宮、田辺商、御坊商工(紀央館)、南部、日高、田辺、中津分校が甲子園に出場している。

(三) 和歌山県高校野球の特色と今後の課題

他県に比べての本県の特色は参加校数が38校と少ないが野球が盛んだし強い、全国優勝が特定の4校(和中、海草、箕島、智弁和歌山)に限られている、私立校が4校と少ない、教員でない外部監督の比率(30%)が高い、監督の在任期間が長い、他県からの野球留学は殆どなく郷土色が強いことが挙げられる。

今後の課題については一つには監督の在任期間が長いので、世代交代が必要になってくるが、果たしてスムーズな交代が出来るかどうか、世代交代によるチームに対する指導力が低下しないかどうかである。二つめは和歌山県は経済発展力が弱いので人口の減少、ひいては少子化が顕著になることと、都市部と郡部との地域的格差が拡大して過疎化が進む。この結果、学校の統廃合による参加校数の減少と部員不足のチームが増えていくことが心配される。部員不足のチーム同士の連合チームの取り扱いが難しくなって来るだろう。